

令和4年9月発刊



※定価は税込み、送料別

新刊

農業をはじめよう

定価990円

- ・農業をはじめる前に知っておきたい基礎知識、就農前に準備しておくべきことをわかりやすく解説
- ・農業への第一歩を踏み出すためのガイドブック

- 第1章 農業を知る（農業ってどんな仕事？、農業をはじめるときの流れ、ほか）
- 第2章 体験する（就農イベント、農業インターンシップ、農業体験、農泊）
- 第3章 相談する（相談窓口はどんなところがあるの？、移住について相談する、ほか）
- 第4章 学ぶ（学校・研修機関で学ぶ、自治体やJAで学ぶ、ほか）
- 第5章 農業をはじめるときの準備（農業をはじめるときのために必要な5つの要素とは？）
- 第6章 支援を受ける（どんな支援があるの？就農準備資金、経営開始資金、ほか）
- 第7章 参考にするとする（経営分析を利用してみよう、先輩農家の声）

※各章末にコラム（農業クラウドファンディング、スマート農業、食品ロス、ほか）

※B5判 本文147頁



はじめに

農業を新しくはじめることを「新規就農」といいます。国の統計によれば、年間の新規就農者はここ数年5万人を超えています。多くの方が新たに農業の世界に飛び込んできておられます。

全国新規就農相談センターが新規就農者1.3万人を対象に行ったアンケート調査において、就農理由を聞いたところ、実に回答者の5割を超える方が「自ら経営の采配を振れるから」と回答、また3人に1人が「農業はやり方次第でもうかるから」と、農業をビジネス対象ととらえて参入していることがわかります。（『令和3年度新規就農者の就農実態に関する調査結果』）

このように多くの新規就農者が起業家精神を持って農業をはじめていますが、本書の中でも触れているように、就農前の準備次第で就農後の経営成績に差が生じることがわかっています。

「備えあれば憂いなし」

このガイドブックは、新規就農前に知っておいた方がよい知識や就農前に準備しておくべきことを幅広く集めています。

「知っていれば損をせずにすんだのに」「準備しておけば良かった」と、就農後、後悔しないよう、是非この本を活用して、農業の世界に飛び込んで下さい。

令和4年9月

公益財団法人農林水産長期金融協会
理事長 佐藤 和彦

目次

第1章 農業を知る

1	農業ってどんな仕事？	2
2	農業を仕事にする3つの方法	4
3	新規就農者の現状	6
4	農業をはじめるまでの流れ	8
5	就農方法① 親や親せきの農業を継ぐ	10
6	就農方法② 雇用されて農業で働く	12
7	就農方法③ 新たに経営をはじめる	14
8	作目ごとの違いとポイント	16
9	農業経営の収入はどのくらい？	18
10	作目① コメ（稲作）	20
11	作目② 露地野菜	22
12	作目③ 施設野菜	24
13	作目④ 施設花き	26
14	作目⑤ 果樹	28
15	作目⑥ 畜産	30
16	新規就農者アンケートからわかった6つのポイント	32
17	ポイント① 農業の基本は「技術習得」	34
18	ポイント② 収益確保には「販路の確保」も鍵	36

19	ポイント③ 年数経過とともに「労働力不足」が課題	38
20	ポイント④ 頼れるのは先輩農家や仲間との「繋がり」	40
21	ポイント⑤ 「5年後、所得250万円以上」は約5割	42
22	ポイント⑥ 「2年以上の研修期間」で平均所得に差	44
23	JAについて知っておきたいこと	46
	コラム 農業クラウドファンディング	48

第2章 体験する

24	就農イベントに参加する	52
25	農業インターンシップに参加する	54
26	就農準備校で農業体験する	56
27	「農泊」で農業体験してみよう	58
	コラム 環境保全	60

第3章 相談する

28	相談窓口はどんなところがあるの？	64
29	全国新規就農相談センターに相談する	66
30	都道府県新規就農相談センターに相談する	68
31	JAグループの新規就農支援	70
32	移住について相談する	72
	コラム 農産物輸出	74

第4章 学ぶ

33	学校・研修機関で学ぶ	78
34	自治体やJAで学ぶ	80
35	農業法人で働きながら学ぶ	82
36	インターネットの就農情報サイトで学ぶ	84
	コラム スマート農業	86

第5章 農業をはじめめる

37	農業をはじめめるために必要な5つの要素とは？	90
38	農地を確保する	92
39	機械・施設を確保する	94
40	住宅を確保する	96
	コラム 6次産業化	98

第6章 支援を受ける

41	どんな支援があるの？	102
	【就農前】	
42	就農準備資金とは？	104
	【認定新規就農者】	
43	認定新規就農者とは？	106
44	経営開始資金とは？	108
45	経営発展支援事業とは？	110

46	青年等就農資金とは？	112
47	農業経営基盤強化準備金制度とは？	114
48	農地利用効率化等支援交付金とは？	116
49	経営所得安定対策とは？	118
	【認定農業者】	
50	認定農業者へステップアップ	120
51	無利子資金を利用しよう	122
	【その他】	
52	収入保険、農業共済とは？	124
53	経営継承・発展等支援事業とは？	126
	コラム 有機農業	128

第7章 参考にする

54	経営分析を利用してみよう	132
55	先輩農家の声①（山形県大江町就農研修生受入協議会(OSINの会)）	134
56	先輩農家の声②（長野県新規就農里親研修）	138
57	先輩農家の声③（JA さがみどり地区トレーニングファーム）	142
	コラム 食品ロス	146

1 農業ってどんな仕事？

■ 農業ってどんな仕事？

農業は、生き物を育てる仕事で、大きく耕種農業と畜産業に分かれます。耕種農業は、土地を耕して食用や鑑賞用などの植物を栽培し、生産した穀物や青果物、花きを販売します。畜産業は、農産物等を飼料として家畜を飼育し、生産した食肉や生乳、鶏卵などを販売します。作物や家畜の種類により栽培や飼育の方法、販売を含む経営の方法や仕事の内容はさまざまです。

近年は、生産・出荷だけでなく、自ら加工や直接販売を行い付加価値を高める「6次産業化」(☞ P98参照)の取り組みも行われています。

■ 産業としての特徴は？

令和2年の農業総産出額は8.9兆円で、そのうち耕種農業は5.7兆円、畜産業は3.2兆円です。農業を主な仕事にする人は、長期的な減少、高齢化が進展しています。

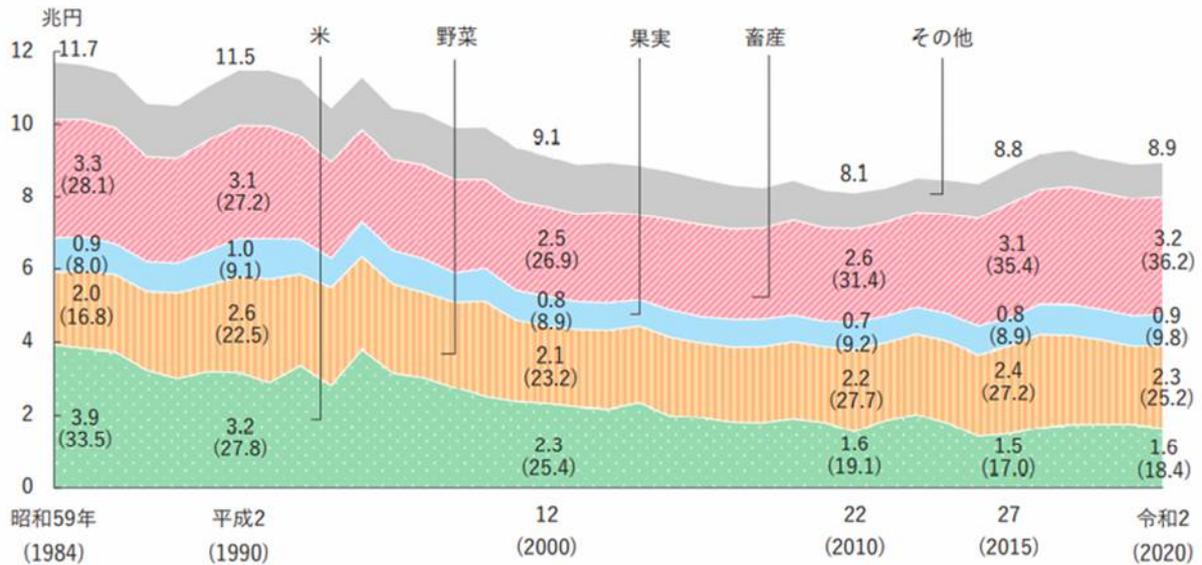
他の産業と比べると、生産物は生活必需品が多く需要が比較的安定している一方で、自然や生物を相手にするために供給が不安定となりがちです。このため需給関係が崩れやすく、価格が大きく上下しやすいという特徴があります。

■ 農業の魅力は？

農業は、人々の食生活に直接かかわる大切な仕事です。また、農業経営者となる場合の経営スタイルは、自分が主体的に決めることができるのも大きな特徴です。

新規参入者が農業を選択した理由として、「自ら経営の采配を振れるから」、「農業が好きだから」、「時間が自由だから」などが多くなっています。

図表 1-1 農業総産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注：1) 「その他」は、麦類、雑穀、豆類、いも類、花き、工芸農作物、その他作物、加工農産物の合計

2) ()内は、産出額に占める割合(%)

(出典：農林水産省「令和3年度食料・農業・農村白書」)

図表 1-2 就農した理由(3つまで選択)

単位：%

就農した理由		今回調査	前回調査 (平成28年度)	前々回調査 (平成25年度)
自然・環境	農業が好きだから	36.4	40.4	37.7
	自然や動物が好きだから	20.1	18.8	23.6
	農村の生活(田舎暮らし)が好きだから	15.7	16.2	18.4
安全・健康	食べ物の品質や安全性に興味があったから	17.0	20.0	19.8
	有機農業をやりたかったから	10.8	11.9	14.0
家族・自由	時間が自由だから	28.3	24.1	27.4
	家族と一緒に仕事ができるから	15.1	19.8	19.8
	子供を育てるには環境が良いから	10.5	10.0	11.2
	配偶者が農業を始めたから	2.0	-	-
経営	自ら経営の采配を振れるから	51.6	52.3	45.8
	農業はやり方次第でもうかるから	35.2	38.2	32.3
	以前の仕事の技術を生かしたいから	7.9	7.9	6.5
消極的	会社勤めに向いていなかったから ※	22.1	16.6	13.8
	都会の生活に向いていなかったから	5.2	3.9	2.5

※「会社勤めに向いていなかったから」は、前回・前々回調査では「サラリーマンに向いていなかったから」としている。

(出典：一般社団法人全国農業会議所・全国新規就農相談センター「令和3年度新規就農者の就農実態に関する調査結果」(令和4年3月))

2 農業を仕事にする 3つの方法

■ 就農の 3つの形態

就農の形態は、大きく次の3つに分けられます。

- ① 自営農業就農：親や親戚の農業を引き継ぐ方法です。
- ② 雇用就農：農業を営む法人や個人に雇用される方法です。
- ③ 新規参入：自ら新たに農業経営をはじめする方法です。この中には、後継者のいない経営を第三者が引き継ぐ場合も含まれます。

■ 就農形態別新規就農者の推移

新規就農者の総数は、平成22年の5.5万人から27年の6.5万人まで増加した後、29年には5.6万人まで減少し、その後はおおむね横ばいで推移しています。

就農形態別にみると、

- ① の自営農業就農は、後継者のいる経営体数の減少を背景として、減少傾向にあります。
- ② の雇用就農は、27年に大幅に増加した後、毎年1万人前後を維持しています。
- ③ の新規参入は、24年から26年にかけて大幅に増加し、その後は毎年3,500人前後で推移しています。

こうした動きから、新規就農者の総数に占める形態別の構成比は、自営農業就農が低下し、雇用就農と新規参入が上昇しています。

■ 新規就農を支援する施策

これらの新規就農者数の推移には、支援施策の効果が反映していると考えられます。

24年度から、原則49歳以下の新規に経営を開始する者及び一定の要件を満たす就農研修を行う者に対して年間最大150万円までの資金を給付する支援策が実施されているからです。なお、研修への支援は2年間であり、修了1年後までに新規経営開始または雇用就農することが要件とされています。（ [42](#)、[44](#)参照）

図表 2-1 新規就農者数の推移（就農形態別）

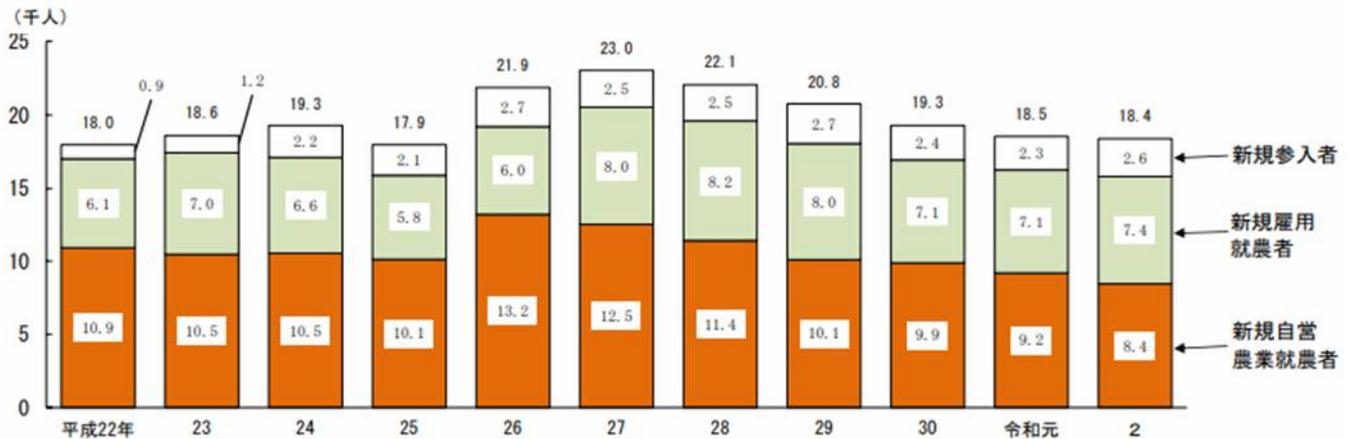
単位：人

区分	就農形態別							
	計	新規 自営農業 就農者		新規雇用 就農者		新規 参入者		
		49歳以下	49歳以下	49歳以下	49歳以下			
平成22年	54,570	17,970	44,800	10,910	8,040	6,120	1,730	940
23	58,120	18,600	47,100	10,460	8,920	6,960	2,100	1,180
24	56,480	19,280	44,980	10,540	8,490	6,570	3,010	2,170
25	50,810	17,940	40,370	10,090	7,540	5,800	2,900	2,050
26	57,650	21,860	46,340	13,240	7,650	5,960	3,660	2,650
27	65,030	23,030	51,020	12,530	10,430	7,980	3,570	2,520
28	60,150	22,050	46,040	11,410	10,680	8,170	3,440	2,470
29	55,670	20,760	41,520	10,090	10,520	7,960	3,640	2,710
30	55,810	19,290	42,750	9,870	9,820	7,060	3,240	2,360
令和元	55,870	18,540	42,740	9,180	9,940	7,090	3,200	2,270
2	53,740	18,380	40,100	8,440	10,050	7,360	3,580	2,580

※新規参入者については、平成26年調査から従来の「経営の責任者」に加え、新たに「共同経営者（夫婦がそろって就農した場合における経営の責任者の配偶者等）」が含まれている。

（出典：農林水産省「令和2年新規就農者調査結果」）

図表 2-2 49歳以下の新規就農者数の推移（就農形態別）



※上に同じ

（出典：同上）